



# 妙たえの光ひかり

通刊63号 復刊42号

2003年6月30日(季刊)

角田山妙光寺 発行

新潟県西蒲原郡巻町

角田浜 〒953-0011

TEL 0256-77-2025

## 百日紅と三重塔

夏の盛りから初秋にかけて、びっしりとピンクの花が咲き続ける。紅い花の咲いている期間が長いから漢字で百日紅と書き、木肌がツルリとして猿も滑りそうだから読みをサルスベリという。古く天竺(インド)から中国を経て日本に渡来した鑑賞樹だそうで、なるほど寺の境内の暑い夏空に合うのも合点がいく。

枝先を切りつめると翌年の花の着きがいいといわれるが、老木で樹高も高いからとても作業ができず放置したままだ。それでもピンクの花は見事で、夏のシンボルともいえる風格がある。

隣り合わせで建つ三重塔は、五重塔や七重塔と同じで仏舎利塔といい、元来お釈迦様のご遺骨を納めるものだった。お釈迦様の塔と天竺渡来の百日紅、いい組み合わせだと思う。

炎天の地上花あり百日紅

高浜 虚子

## — 生命とは — 友人との手紙

小川英爾

— ある日、女性の友人からこんなメールが届きました（同意の上での掲載です） —

お元氣でお過ごしでしょうか。一月に義父の葬儀についてお尋ねしましたが、今度は命です。私の父が機械で生きている状態になりました。肺気腫と肺炎、一度は息が止まりましたが、今はチューブを差し込んでいます。意識が戻って機能が安定し、顔色もよく筆談で退院の準備を氣にかけています。病院にいたくないんですね。

でも肺がもう回復しないのです。自分で息ができる可能性1/3で、ある程度復活しても喉を切つて、器具を胃に直接入れてチューブから食事を摂るのです。一生食べ物をお口にできない。家に帰れる可能性も極めて低い。

つい先週まで元氣に歩いていましたが、徐々に弱ってきていたので無理があつても好きなことをさせ、好きなところに行かせ、酒も飲み、家族は怒らず、機会をみては孫が訪ね、この春は私のところであちの子供

たちの入学祝いを一緒にしました。ゼーゼー言いながら畑仕事を楽しみ、桜を求めて散歩して…、その数日後のことでした。

本人が準備していた感じですが。畳と襖を新しくしたんです。ころっと逝つた私の夫の父のように逝きたいと毎日話していました。医者へ行くのはイヤだと母を困らせる父でもありました。「準備してるんだよ、きつと。私たちも少しづつ心づもりしなくちゃね」と、家族では話していました。延命処置拒否のリビングウェイも提出していて、自らの最期を潔く仕舞う…。私は昔見た「檜山節考」の坂本スミ子の迫真の演技を思い出します。父の田舎は長野、子供のころ連れていかれた姥捨て山のことも浮かびました…。そんな父を立派だなと思っていました。でも、なかなか思うようにはいかないものですね。

意識はとっても元氣になりましたが、昔なら助からない命。朝、惚けて風呂に入ると言ったので、そのまま好きにさせていたら、今頃は奇麗になつて家の畳の上で、白い布をかけて家族に見守られていたかもしれない。でも仏様が河の向こうからまだこっちに来てはいけないって、帰された。寿命ではなかったんですね、きつと。お別れを言い残した？。生きたい！という意志が伝わってくるのです…チューブの奥から。

現代の運命なんでしょうか？生命って？。機械や薬に助けられても命？。若ければ希望や回復の可能性も期待したいし祈りたい。でも八十一才に、望んでいなかった無様な姿でも生き続けよう！、そう励まし続けることって人の道でしょうか？。手を握ってあげながら、もう少しのガマンだよ、そしたらチューブ取れるからって励ましてはいますけど、多くの人が経験するように、家族として、人として、余りに哀れで辛いです。励ましながら涙ぐんでしまう、私です。

自然だとか、どうしようもないことだとか、元気がなくなったからよかったね、と人は言ってくれますが…。でも私は考えたい。何も答えが出なくても、自分なりに考え続けたいと思うのです。心が揺れ動きながら、人に話したり、話を聞いたり、自分の心を形にしたい。仏教ではどう教えるのですか？。生命について…。

### — 私からの返信 —

なるほど、辛いけど素晴らしい体験をなさっていますね。この関係にこそ命の実感があるように思います。私は命とは他者とのやり取りではないかと思っています。この充足感がお互いの存在を確認し、自己の存在を充たしてくれるのではないのでしょうか。機械で生きることになってしまった結果は厳しいですが、これも

縁でしょうから大切になさっては如何でしょうか。機械で生きる延命処置への拒否も、人間として必然的な要求です。宗教的には命は自分でも他人でも操作できるものではないわけですから。

いま一般に言われているのは、人生最期の三点セツトだそうです。1お父さんもなさった延命処置を拒否する尊厳死の意志表示。2痴呆になったとき介護や財産管理を任せられる成年後見への意志表示。3死後の意志表示としての遺言。

しかし現実となるとすんなりとは行きにくいことが、お宅の例でもわかります。でも必要なんです。そのうえで、関係性の強い介護があるべきですし、これが可能ないように社会的サポートが必要なんです。

家族で看取ることができれば、納得のいく介護が最後までできる、最高の幸せで、同時にあなたの子供たちへの最高の教育だと思えます。二度とない大切な時です。介護者が倒れないようにして、悔いの残らない残り少ない貴重な時を過ごしてください。

お寺にいると突然の別れ、理不尽な別れも目にすることがあって、そんなときは共に心が痛みます。あなたのお手紙悲しいことではありますが、心が充たされる思いで拝見しました。

—友人からの返信—

ありがとうございます。考える素材があるところに、調味料をいただいたという感じです。さて、自分の心というもの、そうは当てにならない不確実なものです。が、多少なりとも味わいのある料理ができるでしょうか。

—すばらしい体験—そういう捉え方がありましたか。頑なな気持ち少しほぐれました。—命は他者とのやり取り—息をしている、心臓が動いている、目を開けている…、生命維持装置をしている、そんな「状態」に惑わされますが、やり取り⇨関係なんですね。—これも縁でしょうから—縁…、人との出会いだけを言うのではないのですか？。最近、受け入れるということが必要なんじゃないかと思うことがよくあります、良くて悪くても。在るがままということでしょうか。まあ、すんなりできたら仙人ですけど。抗っても疲れるばかりで、結局は自分に帰ってくるんですよ、自分との闘いになつてしまふというか…。

—人生最期の三点セット、現実となるとすんなりとは行きにくい—一年ほど前に『自分で選ぶ終末期医療—リビングウィルのすすめ』（大野竜三）を読みました。私自身が納得し、父母や父母の友人が読み回しました。それでも父の決断には一年かかった。その提出後一カ

月余りの今回の出来事です。

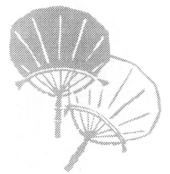
現実を見つめ、受け入れ、人として意味づけをする。そんなことがこれからしばらく続きそうです。また支えてください。

その後、次のような趣旨で連絡がありました。

酸素ボンベ無しで歩けるまでに奇跡的な回復をとげました。本人の前向きな努力、家族の支え、医療者側の適切な治療、そしてこの三者のコミュニケーションがよかったことが功を奏したようです。なによりも家族でぼちぼちながら事前に話し合っていたことが、いざ現実になったときに的確な判断や行動につながったことが大きかったと思います。

「命、生きるって何？」の答えは簡単に出せません。機械に生かされる「命」は拒否したい…そう思う気持ちには変わりませんが、少なくとも父はそこから生還しました。一カ月半ぶりにチューブが取れて笑顔が見られ、声が出たときは「生きている！、ありがたい」と実感しました。高度医療に関して一概に「自然体でない」とか「昔なら死んだ命なのに」とか、否定できないものを新たに抱えました。

# 苦悩多き毎日の中で



新潟市 高橋 賢 一さん（六十九才）

高橋さんは

六年前に父を亡くし、この五月の末に九十四才の母を亡くされた。前の夜、元気に床に着いたのに翌朝様子が変わり、集まっ

で壇の仏壇前



た親族の前で高橋さんに抱かれて静かに息を引き取った。老衰だった。

母の最期は幸せだったが、この二月か

ら妻のキクさんもくも膜下出血で入院中。重い糖尿病もあって手術ができず、点滴で回復をはかっている状態で、高橋さんは毎日病院に顔を出す。長女は嫁いで、母亡き後長男と二人で過ごす日々を送る。

新潟市といえ自宅のすぐ前に新川が

流れ、裏は角田山に続く広大な田んぼが広がっている。今の季節はともさわかだが、季節風がもろに吹きつける冬の気候は厳しい。新川がたびたび洪水を起こすため稲作もあてにならない土地に、先々が当時屋根をふく材料のカヤを刈って、生計を立てるために分家に出たのが始まりだった。

その後すっかり整備された田んぼで、

二代目に当たる亡き父が稲作に精を出し、高橋さんは三十才で大工になって家族を支えてきた。その大工も引退して、田んぼと畑仕事、そして家事をこなす。

「農協が野菜以外の食材を届けてくれるし、倅も勤め先で宿直がない日は家事をやるから男所帯でも心配ない」と。

高橋さんには次男がいる。早産だった

せいか、身体に重い障害があつて幼い頃から施設で暮らしている。数年前までこの保護者会長を八年間勤めた。まだまだこうした施設が足りない。それもあつて県外の施設と交流会を持つと、新潟県は運営面で遅れていることなどを痛感させられたという。

「忘れられないのは施設で初めての海水浴をしたとき。砂浜で車椅子がうごかせないから人手が足りず、高校生のボランティアをお願いした。大変だったぶん入所者が喜んでくれたこと」

朝は農作業と炊事で忙しいから、お仏壇参りは夕方ゆつくりと。それと母の葬式後だからいまは休んでいるが、新川に舟を出しての魚採りが心を安らげる。川の水が汚れているから魚は直接食べないで、川蟹漁の餌にした。秋に採れる鮭はスジコを食べるくらいだそう。正月とお盆のお寺参りも欠かしたことはない。実直そのもの高橋さんだ。



広大な田んぼが広がる

# 役員改選、その他



## 役員会議のご報告

去る四月六日改選にともなう新旧役員出席のもと、役員会議を開催しました。主な内容をご報告します。

### ・妙光寺会計報告

檀信徒の皆さんに、宗教法人妙光寺の平成十四年度会計報告と、十五年度の予算書を配布しました。これまでは護持会と安穩会の会費のみでしたが、昨年度から全体の会計を役員会で審議してご報告しています。

行政の指導通りに行なうには細部にわたり事務作業が膨大なため、今回の報告は数字のみです。さらにわかりやすくするために、十五年度から宗教法人専門の会計事務所に事務作業を委託しました。引き続き開かれた妙光寺の運営を目指しますので、ご理解ください。

### ・会費納入のお願い

妙光寺の収入は①お布施②基金の利息③皆さんからの会費の三本柱で成り立っています。その今年度分の会費納入をお願いいたします。金額は例年通り、近い方は地区の世話人が直接伺い、遠方の方には郵便振り替え用紙を同封しました。

### ・本堂工事会計報告

おかげさまで本堂工事の精算が完了しました。ご協力いただきました全員に事業報告と会計報告を別紙同封しました。この不況のさなか多大なご協力をいただき、成就できましたことを厚くお礼申し上げます。

### ・総代、世話人改選

妙光寺の運営は住職と三人の総代が執行部となって、二十二人の世話人が加わった役員会議で審議して行なっています。

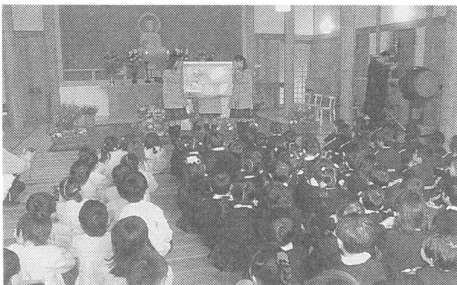
す。三年任期、七十五歳定年の規則に従い、このたび三分の一に近い役員が改選されました。尚三期以上勤められた方は顧問に就任されます。

### ・改選役員名(敬称略)

総代―内藤昭一(巻下) 世話人―石田誠太郎(角田) 星野越生、寺尾勝子(巻上) 小林興志隆(巻下) 内藤三男(割前) 笹川啓作、遠藤健治郎(山本) 小林竹夫(大野) 野澤進、羽生信二(新潟、他)

### ・顧問就任

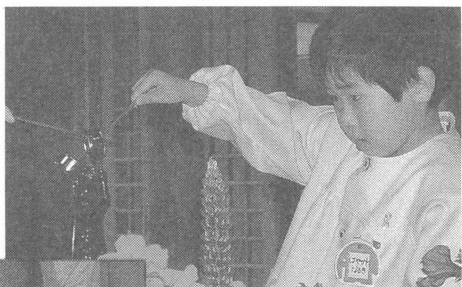
小林雄以 斎藤政六 河野熊一郎 小林興志英 内藤喜重郎 笹川治一 笹川耕一



## 花祭り

本来なら四月八日の誕生日に催すお釈迦様の花祭りを、五月十六日巻町にある仏教系保育園と幼稚園三園合同で妙光寺本堂で行ないました。

百人の園児たちが本堂で唄を歌い、紙芝居を見、花で囲まれた誕生仏に甘茶をかけ祝いました。



親御さん手作りのお弁当を食べてから本堂前の院庭でゲーム、子供たちの楽しそうな声が境内に響きました。



### 四菩薩像開眼法要

本堂のお釈迦様像の両脇に安置する四体の菩薩像が九月に完成します。この開眼法要を十月四日(土)に営む予定にしています。詳細は改めてご案内します。

### 中国団体参拝旅行中止

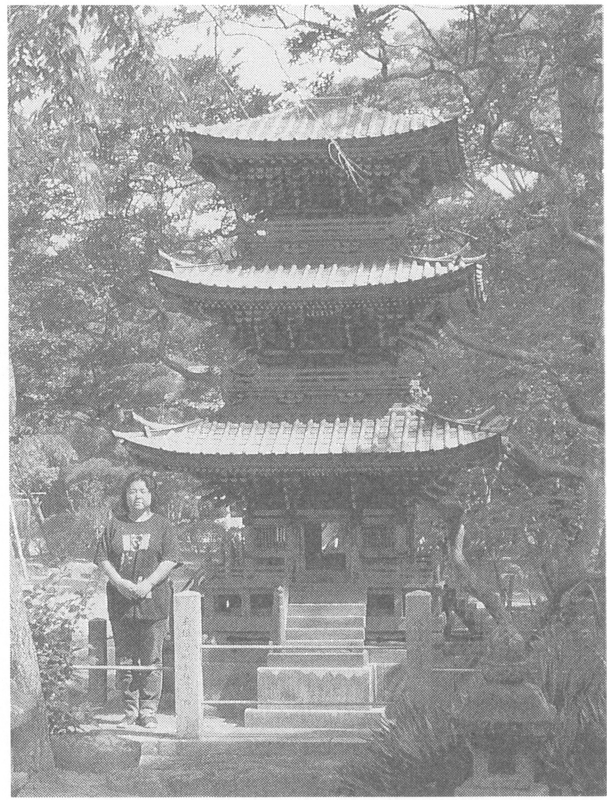
秋に中国天台山参拝団体旅行の計画をする旨、前号でご案内しました。十五名程の申込があったところで例の新型肺炎が発生し、キャンセルの申出が続きましたので、大事をとって計画中止としました。残念ですがまた企画します。

### 三重塔の破損

妙光寺には高さ六メートルほどの小振りの三重塔が本堂前にあります。経緯は不明ですが、以前は宗派の違う別の寺にあったそうで、そこでは上屋を架けた総金箔張りの姿だったと言ひ伝わっています。

妙光寺では雨ざらしで、昭和四十年に修復したものの近年また痛みが目だつて

いました。しかしとても手をかけられる状況にないので、放置してききましたが、春先の突風で上部がさらに大きく破損し、中に直接雨が入る事態になりました。頭の痛い問題ですが、対応策を協議中です。



三 重 塔

# 八月一日(金) お盆法要、墓経ご案内

妙光寺は檀信徒の皆さんのお宅が遠方なため、昔から法要とお墓参りを十三日でなく、八月一日に行なつてきています。特に一軒一軒個々のお墓の前で読経する墓経(はかぎよう)は、涼しい早朝から午前中に行なっています。皆さんお揃いでお出かけください。

午前 六時 墓経受付開始

八人ほどのお上人が墓地で待機していますので、自由にお願ひしてください。

安穩廟の銘々の区画での読経もお受けしています。

六時半 受付帳場開始(お昼ころまで)

客殿の玄関入った大広間に受付係がお待ちしています。

・お布施、盆札(本堂での法要のお布施、お中元のようにお盆のお志を拝受)

・お斎(ひとり千円で昼食をご用意します)

・会費(世話人のいない地域で郵便振替しない檀信徒会費、安穩会費を受付)

・施餓鬼卒塔婆供養料(事前に申し込まれて供養料が未納の方の受付)

・フェスティバル安穩(送迎バス、懇親パーティー、ロウソク献灯の受付)

・総合案内(ご不明のこと、ご相談、就職への用件取り次ぎ)

十時

墓経受付終了

ご都合で遅れる方のためにお昼ころまでは若干名のお上人が残りますが、混雑しますのでなるべく十時前までにお願ひします。

十時半

安穩廟合同法要

銘々の区画にお花等をお供えした前、または蓮華庵の周囲で法要に参列ください。

十一時

孟蘭盆会施餓鬼法要(うらぼんえせがきほうよう)、本堂でお盆の法要です。とくに妙光寺で葬儀をされた新盆の精霊は、段上にお位牌を安置してご供養します。その他の方は卒塔婆(二千円)をお申込ください。時間のある方はお墓だけでなく、こちらの法要にもぜひ参列ください。

昼 十二時

お斎

どなたでも受付に申し込んでお召し上がりいただけます。

午後 一時

お説教

本堂で暑いですが、ぜひお聞きください。これまでの方と代わります。

二時

終了

卒塔婆(そとうぼ)とは

お釈迦様の徳を偲んで、インドで石やレンガを使い建てた塔(ストウパ)にならい、故人を偲び供養のために木の柱や板に戒名か俗名を書いて、法要の際に立てるもの。妙光寺では六尺長さの板です。



# 希望者に戒名をお授けします

記

## 妙光寺第二回授戒会（じゅかいえ）

・十月四日（土）午後（時間は改めてお知らせします）

・特別な服装は不要ですが、法事に参列するような感じでどうぞ。

・式の前に、日蓮宗の基本的なことについて研修していただきます。

・費用として二万円をお納めください。戒名とお名前を刺繍した略式袈裟、数珠などの記念品をご用意します。

・お申し込みは九月十日までにお願います。

・体調が悪く式には出席できないが、という方も結構です。

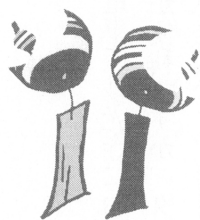
・不明な点は遠慮なくお問い合わせください。

戒名は仏様の弟子となった証としてつけるものですから、亡くなつてからではなく、生きているうちにつけるのが本来です。戒名を戴いて、自分の後の生き方をしっかり戒める名前ですから、戒名というわけです。

菩提寺の住職が仏様に代わつてお授けするものですから、その寺の檀信徒にしかおつけしません。また代々続く方でなくても、またご夫婦のおひとりだけでも、個人におつけするものですから問題ありません。

世間の一部では“戒名料”といつて、お金で買うがごときに思われている風潮がありますが、妙光寺ではこれまでもこれからも無料です。

そういうことなら欲しいという檀信徒、安穩会員がおられませんでしたので、昨年希望される方に戒名をお授けする第一回授戒会を行ないましたところ、二十二人が申し込まれ、大変喜んでいただきました。そこで第二回を下記の要項で行ないます。ぜひお申し込みください。



# 安穩廟十五年目



杜の安穩として周辺の整備が進み、春の桜から新緑が一段ときれいでした。木が大きく成長しますから、年々よくなっています。

開設一年を迎える杜の安穩ですが申込が途切れず、八十区画のうち六十区画が決まりそうな勢いです。会員の方のご紹介が多いことに感謝しています。

安穩廟も十五年目を迎え、古い会員さんで亡くなる方が増えてきました。その際に葬儀依頼のご相談もあり、役員会議で協議のうえ原則的にお応えすることにしました。新潟市内初め県内はもとより、県外でもご相談に応じます。昨今、もしものときにどうしていいかわからず、葬儀社任せになってしまいう傾向です。そのための手引き書が欲しいとの声で、妙光寺の対応や、後々のことを含めた内容で

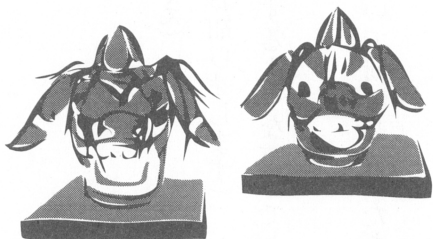
作成を検討しています。お待ちください。

安穩廟にペットを埋葬することはできません。従来のも同様に。ただ家族同様に可愛がってきたので、という声があり、敷地の一角にペットの遺骨を合同で埋葬する塚をつくりまします。既に完成までお預りしている遺骨もあります。ご希望の方はお問い合わせください。ただし会員、檀信徒からのお申込に限定します。

第十四回フェスティバル安穩を八月二十三日（土）に行ないます。詳細は案内パンフレットをご覧ください。昨年にも増した企画で皆さんの参加をお待ちしています。また法要で灯す大口ウソクの献灯をお願いします。昨年はちょうど二百本になり、広い会場一杯に点灯されました。

同封の振替用紙で年会費をお願いし

※新潟方面から電車で妙光寺においでの際内野駅下車が便利ですが、タクシー代のかさむのが難点です。利用者も多いので一割の割引券を折衝中です。決まればご希望の方に差し上げますので、お問い合わせください。



# 「も ん た」



小川 なぎさこ

梅や桜から始まり次々に境内を彩っていた花も終り、今は濃いみどりに包まれています。紫陽花と睡蓮が雨によく似合っています。静けさが漂っています。暖かい時期の雨は恵みの雨ですね。片隅に植えた夏野菜がぐんぐんのびて嬉しいものです。

私たちにとっては、蒸し暑くてなんとなく体がだるかったり、食べ物も腐りやすくこの時期はうっとうしいですが、それでも気持ちは元気に過ごしたいですね。晴れた日には、大きな蛇、美しい色の蝶の数々、ホトトギスやその他いろいろな野鳥の鳴く声。夜は東の山でフクロウ、南の山でムササビ、カエルの合唱もがんばっています。

自然があると言うことはこんな風に書

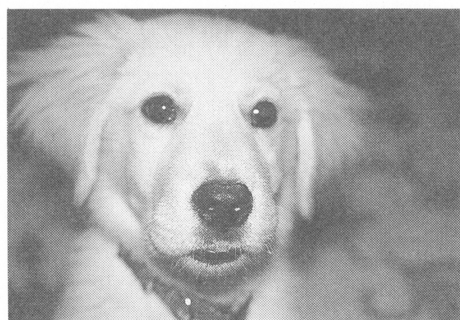
くとすばらしいことのように思えるけれども、家の中で十cmの真つ赤なムカデがいたり、ハエや蚊、ゴキブリ、アブ、カメムシ、なんでも飼っている状態。怖いですよ！

今日はサンダルの中にカナヘビっているのでしょうか。七色に光るトカゲのような生き物が入っていてびっくりしました。

お寺を訪ねられる方々も驚いたり嫌な思いをされたこともおありでしょう。でもそれだけ自然のままだとお許しください。いね。

ただゴキブリとネズミは業者に頼んで定期的に駆除していますので安心して下さい。

確かもう動物は終わりと云った舌も乾かないうちに、笑われると覚悟の上でお



まいました。ゴールデンレトリバーの「もんた」です。

とても人なつこい犬で、誰とでも仲良くなれるようなお利口な犬に育てようと、育児の真つ最中です。

夏には半年を迎えます。よろしくお願ひします。これで私もまた家出も出来ず、妙光寺で当分頑張ることになりそうです。

今年の夏はどんな夏になるのでしょうか。少しづつ暑さに体を慣らして、夏を乗り切りましょう。

お元気で。

# 行事案内

年会費納入お願い

七月中に各地区の世話人が各家に檀信徒会費、八月一日の施餓鬼法要卒塔婆供養料をいただきますに伺います。県外、新潟市等遠方の方、安穩会費は郵便振替か八月一日にお持ちください。卒塔婆供養の当日申し込みは混雑して間に合いません。事前にお申し込みのうえ、振替送金か当日持参でお願いします。

七月初旬 関東地区お盆経

関東地区の檀信徒宅に、住職が日時ご連絡のうえお伺いします。

八月一日(金) お盆墓参り 施餓鬼法要

八ページに詳しくご案内しました。

八月十三日〜十六日 お盆棚経

例年通り住職と鎌田、お手伝いの成川上人の三人で全檀信徒宅を回ります。

予定を知りたい方、留守になる方は十日以降にお電話ください。

新潟市内他、遠方の地域は十日前に伺いますが、予め日時をお知らせします。

八月十九日(火) 岩屋七面宮祭礼

午前十時半 本堂にて読経 その後岩屋に移動して法要 おときあります。

八月二十三日(土) 第十四回フェスティバル安穩

参加自由。詳細は別紙の案内をご覧ください。

九月二十三日(祭日) 秋季彼岸会

午前十時半 安穩廟合同法要 同十一時 彼岸会中日法要

昼 お斎(どなたでも) 午後一時 住職説教

十月四日(土)

四菩薩像開眼法要、お会式、第二回授戒会

詳細は改めてご案内します。



あ・と・き  
が・き



今回から紙面を大きくしてみました。文字を大きくできるという利点が一番の理由ですが、クロネコヤマト便が大き目の封筒でも安く早く運ぶようになったせいもあります。特に今回の夏の号は他のご案内もあり、作業が楽で送料も安いのは大助かりです。

またこれに併せてパソコン内部も入れ替えし、会費の案内書式を変更しました。そのパソコン作業を、友人が仲間を連れてきて数日かけてボランティアでやってくれました。これまでのものと同じ学生時代の友人が苦勞して作ってくれたもので、これらを仕事として頼むと百万近い経費がかかります。さらにホームページも準備を進めています。皆さん「妙光寺が好きだから」ということで、つくづくありがたいと思います。

それにつけても機械オンチの私は作業以外に使い切れず、自分の頭の硬さに嫌気がさしています。日常の操作は娘が頼ります。

(小川)